

特定非営利活動法人 まる 設立趣意書

“まる”という言葉にかけた思いの一つとして「やわらかく、包み込む」というイメージから「様々な人々を受容していきたい」ということがあります。この思いは1997年に開所した無認可の福祉作業所「工房まる」の活動で形にしてきました。言うまでもありませんが、私たちの活動のプロセスには必ず障害のある人の存在があります。そこでは人々を惹きつける様々なアイデアが生まれ、これらの実績を社会に発信していくことにより、様々な分野の人たちとつながり、活発な交流が行われるようになりました。「工房まる」は単に障害者施設としてだけの存在ではなく、その活動をきっかけにつながりあった人々の集う場、居場所ともなりました。それは様々な立場の人を包括したコミュニティの創造であり、まさに私たちが“まる”という言葉にかけた思いそのものでした。

社会的弱者と呼ばれる人々の生活は、常にその「時」の社会環境に翻弄されると言っても過言ではないでしょう。とりわけ「障害者」は性別や年齢など問わず存在し、人がこの世に生を受けてから去るまでの「人が生きる」ことすべての課題が表に現れてきます。

しかし、自分自身や家族にどんなことがあったとしても、「障害」により社会との関係性が断たれるのではなく、誰もが「自分らしく」生きる為につながりを持って生活したいと思うことでしょう。その為には一人ひとりが自分らしく生きていけるコミュニティの獲得がとても重要です。このようなコミュニティの創造は障害のある人だけの課題ではなく、今や社会全体の課題でもあるのです。

「障害」とは人や社会との「あいだ」で生まれるものであり、人が人や社会とのコミュニケーションを困難にさせている感情的、物理的な要素であると私たちは考えます。互いがそれぞれの個性や表現の違いを知り、認め合えば存在せず、つきつめると「個対個」の問題であり、日常的な関わりの中で向き合い、理解し合っていくことしか解決策はありません。それには対話や経験を繰り返す為の「時間」、人が集い、それぞれの可能性を広げられる「空間」、こうした考えを共有し、刺激しあえる「仲間」という3つの「間」を必要とするのです。

まるは、この「3つの『間』づくり」をコンセプトとした障害者福祉を基本とし、前述の活動や培ってきた経験そして思いをもとに、以下の2つの事業を柱にしたいと考えます。第1に、障害のある人の生活や仕事、ケアをサポートできる日中活動の場や、自分らしい生活を送ることのできる暮らしの場作り、また日常生活を支援することなどを含めた「施設運営事業」。第2に、新たなコミュニケーション・コミュニティの創造を目指したコンテンツ作りやプログラム開発、また他者との違いを認め合える豊かな社会創りをめざし、地域や様々な分野の人たちとの交流を促進していく「コミュニケーション創造事業」です。

これらの事業を行っていくためには、継続的な活動を行っていくこと。また社会的な信頼を得ることが不可欠なことから特定非営利活動法人格を得ることが必要です。障害のある人はもとより、この社会で生きる私たち一人ひとりが、社会から孤立することなく、より多くの自分の生き方を自由に選択でき、自分らしく生きていける豊かな社会づくりに貢献できることを確信し、特定非営利活動法人 まる を設立することとします。